

決算認定案の審査から

9月定例会では昨年度の予算が適正に執行されたか、その過程や結果について議会がチェックをする決算認定案の審査が行われ、いずれも認定されました。

委員会でのどのような質疑が交わされているのか、その一部をお知らせします。

総務委員会

はんだ市報

問 監査委員の意見書では、元々全戸配付という基本ルールに基づき、全員に渡るよう求めています。自治区に対し全員に配るようお約束いただくか、未加入世帯には配らなくていいと決めるのか、どう考えていますか。

答 自治区には全戸配付をお願いしています。それを受け止めて未加入世帯にも配っていたらいい自治区とそれができずに公民館や区民館等に置いている自治区がありますので、区長会で改めて議論していきます。

消防施設整備事業

問 民有地に設置されている防火水槽の借地料や固定資産税の取り扱いについてのルールはありますか。

答 取り扱いが不統一なものが確認されており、土地対策会議において整理しています。防火水槽に限っては、消火栓の設置も進んできていますので、本来に必要な水利なのか調べたうえで、今後の方向性を定めていきます。

半田病院事業経営

問 9年ぶり赤字決算で大変残念に思います。人件費、材料費等の費用増、様々な要因があると思いますが、1億2千600万円の赤字に対し市長の考えを伺います。

答 平成29年度は県内病院で赤字になるなど、どこの公立病院も厳しい経営状況でありました。なおかつ診療報酬を多く稼げる診療科の医師が手薄になったということもありました。今後は名古屋大学の医局とのパイプを更に太くして、必要な診療科に対し、経験豊かな医師を派遣していただけるよう努力します。

看護助手・メディカルアシスタントの確保

問 それぞれ75名、33名の目標に両方とも届いていませんが、目標の立て方をどのように考えていますか。

答 目標値は診療報酬加算を基準としており、看護助手75名に関しては、看護補助体制加算の最大値、メディカルアシスタントについて



ては医師事務作業補助体制加算の最大値33名としています。定数に届いていない理由としては、資格を全く必要としないので、医学用語の知識が全くない方が突然、病院の中に入り、合わないということとで退職に至ったりしたことなどによるものです。

文教厚生委員会

地域福祉推進事業

問 ふくし井戸端会議の参加者の固定化について、どのように改善しましたか。

答 平日の昼間に開催していた会議を土日や夏休みに開催したので、普段は仕事で来られない方や学生の方の参加が増えました。

老人クラブ活動助成事業

問 会員数の減少と担い手不足の現状をどう考えて、今後取り組んでいきますか。

答 会員数が減少しても事業等は減らずに役員の負担が増すなどの課題があります。今後は事業の整理とクラブのスリム化を図っていきます。



保育園の待機児童対策

問 受け入れの定員を増やす対策は行っていますか。

答 いつも低年齢児が待機児童になるので移転新築をした保育園の定員を15名拡大しましたが、定員を上回る入園希望がありました。そのため今年度はさらに21名拡大しました。また来年4月、民間の小規模保育所2か所が開設される予定です。

要保護児童対策事業

問 半田市の要保護児童の現状と、虐待する側の傾向はどうなっていますか。

答 虐待の通告件数は大きく減少していませんが、これは市民が虐待への意識が高まっているものと考えています。なお虐待の傾向として、ネグレクトの割合が多いです。

スクールカウンセラー派遣事業

問 半田市独自の補助で、スクールカウンセラーの追加派遣を行って

答 いる成果をどのように考えていますか。
児童生徒や保護者から

